第182回　aacaフォーラム

「　歌舞伎を語る　」

人間国宝 六代目
澤村田之助

歌舞伎役者

平成25年11月7日　京橋創生館ＡＧＣスタジオにおきまして、第１８２回フォーラムが行われました。「歌舞伎よもやま話」と題し人間国宝澤村田之助氏にお話しいただきました。立石フォーラム委員長より田之助氏の紹介があり、人間国宝はじめ紫綬褒章、旭日章受章、松尾芸術賞、今年、黄綬褒章も受賞されておられます。

端正な羽織はかま姿の田之助氏の話が始まり「どうして歌舞伎役者になったか」あまりしられていない話をしたいと始まりました。歌舞伎の名家に生まれ「伽羅千代萩」鶴千代で初舞台を澤村由次郎の名で演じました。８歳、昭和１６年でした。昭和３９年澤村田乃助６代目襲名しました。幼いころから相撲に夢中になり５歳で東西の十両、幕下の名前を覚えたとか。昭和１４年、６９連勝の双葉山が安藝海に敗れた世紀の対戦を６代目菊五郎さんに連れられ観たことは良い思い出です。芸事は６歳６月６日から踊り、長唄、義太夫，と日中戦争に逆らうようにお稽古しました。女形の勉強とはいえ振袖をきてバスに乗ったことを覚えています。当時の役者方は 15 代羽左衛門、７代幸四郎、初代吉右衛門、12 代仁左衛門、友右衛門さんなどで賑わっていました。太平洋戦争が勃発、歌舞伎座は昭和１８年から休演、戦後、菊五郎劇団に戻りました。

「十六夜清心」で尾上梅幸さんと共演、恋塚求女を演じ、千秋楽の日、「澤村由次郎表彰する」と貼り紙されたこと、滅多にないことでしたので役者になってよかったと幸せでした。

歌舞伎は面白い世界だけれど、稽古が大変、セリフを覚えてどういうふうに相手方に伝えるか、気を抜くとセリフは忘れる。間が大事なことを話されました。膝を悪くされ正座が無理になり休演中ですが、国立劇場歌舞伎俳優研修生指導の重責を担っておられます。

私自身旧歌舞伎座で何度も拝見させていただいたことが懐かしい思い出です。お声がよく通ります。数あるお芝居の女形を演じられた中で「め組の喧嘩」のお仲が一番お好きだとお聞きしました。

最近「澤村田之助昔がたり　回想昭和の歌舞伎」を雄山閣より出版されました。御高覧のほど。

講演が終わり隣のパーテイ会場に移り大勢の方々が参加され親睦を深めるいい機会となり楽しい夜を過ごしました。

フォーラム委員　村松勢津子

講師　プロフィール

役の解釈が深く確かで、コクのある芸。六代目菊五郎と梅幸の薫陶を受けた正統派の女方で、近ごろは『盲長屋梅加賀鳶(めくらながやうめがかがとび)』のお兼のような、江戸の闇の匂いがする汚れ役も演じている。時代物の片はずしの役もいい。『雪暮夜入谷畦道』(ゆきのゆうべいりやのあぜみち)の按摩丈賀(あんまじょうが)のような老け役を演じる機会も増えた。永年積み重ねた実力と芸域の広さで、引っ張りだこの存在。国立劇場歌舞伎研修の主任講師を勤めている。

[芸歴]
昭和７年８月４日生まれ。五代目澤村田之助(初代曙山【しょざん】)の長男。
昭和 16 年３月　歌舞伎座『先代萩』の鶴千代ほかで 四代目澤村由次郎を名のり初舞台。
昭和 39 年４月　歌舞伎座『矢口渡』のお舟ほかで六代目澤村田之助を襲名
屋号は紀伊國屋、定紋は鈎菊(かんぎく)、替紋は波に千鳥。
舞踊の名取名は　藤間 勘之(ふじま かんじ)。本名は山中宗雄(やまなか むねお)。
人間国宝。

[受賞]
昭和 40 年度第十一回テアトロン賞。以後、国立劇場優秀賞、松竹社長賞、名古屋演劇ペンクラブ　年間賞など多数。
平成８年度芸術選奨文部大臣賞。９年紫綬褒章。12 年松尾芸能賞特別賞。
12 年度日本芸術院賞。
14 年重要無形文化財保持者(人間国宝)、　25 年旭日小綬章。

曽我の対面（寿傾城の大磯）